

編集後記

ソ連邦の崩壊という世界的な大事件の起こった1991年も間もなく終わろうとしている。光陰矢の如しという言葉が実感される季節である。

今月の特集は「脳卒中リハビリテーションのトピックス」である。トピックスの内容は田中氏らの廃用性筋萎縮、大川氏らの廃用性骨萎縮、石田氏の排尿障害、半澤氏らのうつ、佐鹿氏の80歳以上の高齢者のリハビリテーションの5論文であるが、うつを除いては廃用症候群そのもの、あるいは極めて関係の深いテーマである。廃用症候群は古くて新しいテーマであり、最近この領域では良い業績が数多く発表されているが、筆者にとってはこの領域の先駆的業績の一つである Deitrick, Whedon & Shorr の論文を読んだときの感動が今でも忘れられない。それは1947年 *American Journal of Medicine* に載った immobilization の人体実験の報告であり、4人の健康青年男子の下半身をギブスで固定して8週間にわたって安静をとり続けさせて、その間の血液や尿やその他の変化を追った34頁にわたる詳細な論文で、お読みになった方も多いことと思う。その論文の前段に実験対象者となった4人の年齢、身長、体重、投与された食事の成分と量が記され、身長、体

重が著しく劣っている1人が二世であると書かれていた。第二次世界大戦が終わって間もない時期で、対日感情も悪かったろうし、この青年はこの厳しい人体実験にどんな気持ちで、ボランティアとして参加したのだろうかと思い、涙を流したものであった。“Nisei”という米語があることもこの論文で初めて知った。

廃用症候群ではないが、うつもまた重要な問題である。七沢リハビリテーション病院は1966年に開設されたが、最初の10年近くは平均して1年に1人弱のうつによる自殺者が出た。当時は1年間に約500人の脳卒中患者を扱っていたが、筆者は草食動物的な日本人には、障害を克服して生きるというリハビリテーションは向いていないのだろうかと一時は真剣に悩んだものである。幸いにして、看護体制の充実とともに早めにうつが発見され、抗うつ剤の投与によって制圧されて、その後全く自殺者は出なくなったが、この種の問題の重要性を痛感させられたものであった。

以上、特集に関する筆者の思いを綴っているうちに紙数が尽きてしまった。読者諸兄姉が良い年を迎えられることを心からお祈り申し上げます。

(横山 巖)

編集顧問

天 児 民 和
大 島 良 雄
河 邨 文 一郎
五 味 重 春
津 山 直 一
土 屋 弘 吉

編集委員

明 石 謙
上 田 敏
緒 方 甫
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
千 野 直 一
横 山 巖

編集同人

今 田 拓
江 口 壽 榮 夫
大 橋 正 洋
小 川 孟
荻 島 秀 男
奥 川 幸 子
落 合 芙 美 子
加 倉 井 周 一
古 賀 唯 夫
小 島 蓉 子
近 藤 徹
斉 藤 正 也
笹 沼 澄 子
澤 村 誠 志
高 橋 勇
高 松 鶴 吉
武 智 秀 夫
田 中 信 行
土 肥 信 之
土 肥 豊
中 村 隆 一
奈 良 勲
野 島 元 雄
野 村 歡
初 山 泰 弘
福 井 罔 彦
福 田 道 隆
村 上 恵 子
矢 谷 令 子
渡 辺 英 夫
(五十音順)

総合リハビリテーション (第19巻 第12号)

1991年12月10日発行 (毎月1回10日発行)

発 行 株式会社 医学書院

代 表 者 金原 優

1部定価 1,906円 (本体1,850円)

(配送料61円)

〔年ぎめ予約購読料 24,420円
(本体23,709円、ただし増大号を含む)
(送料弊社負担)〕

〒113-91 東京都文京区本郷5-24-3

電話 社内案内 (03) 3817-5600

本誌編集室直通 (03) 3817-5704

(担当: 佐々木・細田)

販売部直通 (03) 3817-5659・5660

ファクシミリ (03) 3815-7802

振替口座 東京 7-96693番

印刷所 三報社印刷(株): 電話 (03) 3637-0005

広告申込所 (株)東広社: 電話 (03) 3409-8803

- Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku Tokyo © 1991, Printed in Japan.
- 本誌に掲載された著作物の複写・転載およびデータベースへの取り込みに関する許諾権は医学書院が保有しています。
- 無断で複写・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますので御注意下さい。